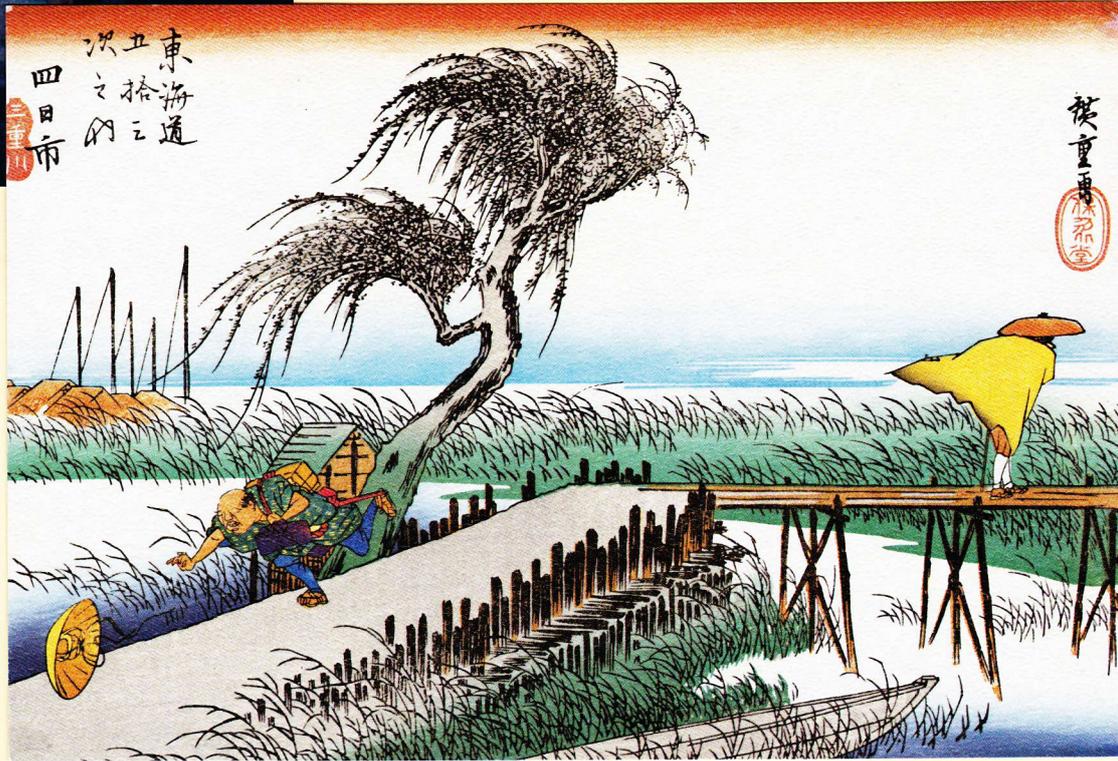


東海道五十三次

江戸より四十三番目の宿

四日市

湊町として伊勢参宮道の分岐点として栄えた四日市宿。いまでは三重県最大の都市であり、藤海部と石油化学工業などのコンビナートが立ち並ぶ工業都市である。なつかしいながら餅の味にはつとませらぬ。いまでは大きな煙突や石油タンクがまじりりと並ぶ港灣部もその昔はうららかな湊で、諸国の物産の集散地であった。また四日市の名物の一つに「蘆気楼」がある。いまでもまれに沖行のタカオの船影が浮かび、逆さに見



三重県 伊勢郡 四日市

東海道五十三次
四日市

えたりすることがあるそうです。

▲国道の橋をわたり、石碑にならんで、左手に入る道を行くと、芭蕉句碑、歩行古遺物の残る集落になり、杖置き塚をいたり、そのまきか杖置き塚のほりになる。日本武尊が剣を杖かきりして越えたという故事が伝わり、その急な坂道、坂の途中に

▲国道の橋をわたり、石碑にならんで、左手に入る道を行くと、芭蕉句碑、歩行古遺物の残る集落になり、杖置き塚をいたり、そのまきか杖置き塚のほりになる。日本武尊が剣を杖かきりして越えたという故事が伝わり、その急な坂道、坂の途中に

日永の追分
旧道が国道と合流するところ、創業天文一十九年（一五五〇）の老舗、笹井屋。餅は細長く、軽いけめがついており、中に餡が入っている。その形から武運の長きは幸先よしと、縁起をかついだもの。勝手してから道を分かれた。

